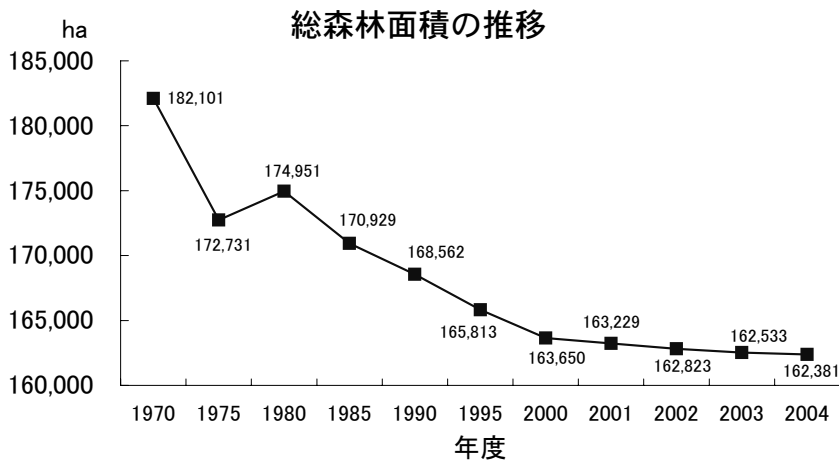
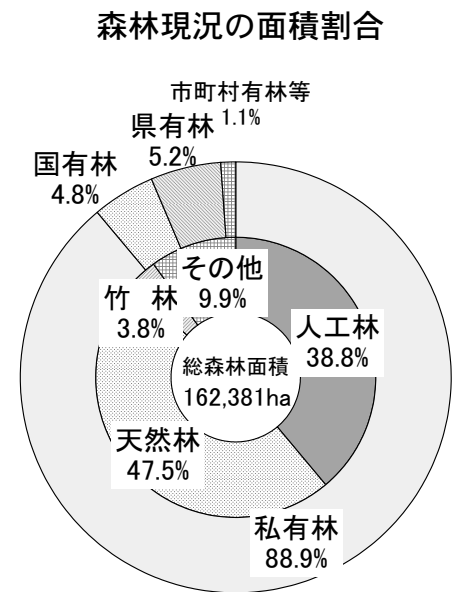


# 1. 森林資源



図表 1



図表 2

## 《森林資源》

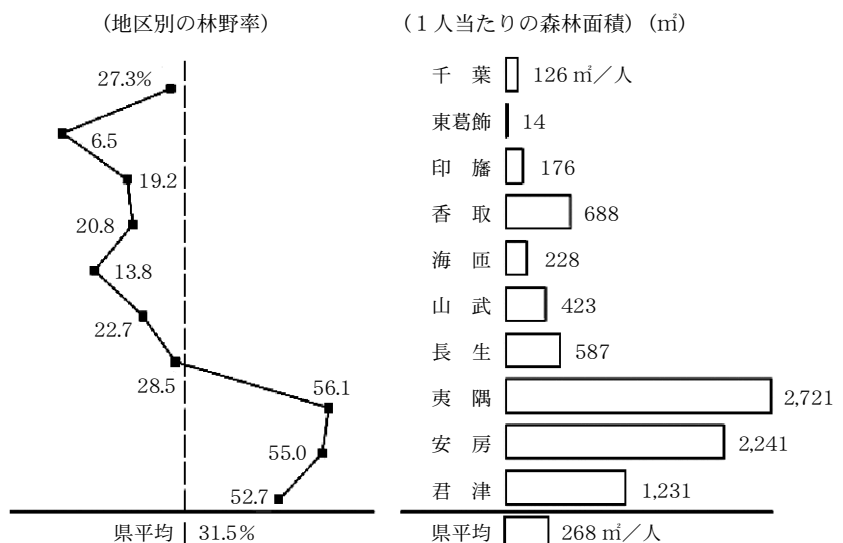
### — 多面的機能の発揮が期待される森林 —

本県の森林は、水源のかん養等の多面的機能の発揮を通じて県民生活に大きな役割を果たしている。面積は 162,381ha で、蓄積は 23,929 千 $m^3$ である。

森林面積は、年々減少しており、過去 5 年間では 2,233ha (1.4%) 減少した (図表 1)。所有形態別の面積は、私有林が最も多く 144,338ha (88.9%)、県有林 8,453ha (5.2%)、市町村有林・財産区有林 1,836ha (1.1%)、国有林 7,755ha (4.8%) である (図表 2)。この構成割合にはほとんど変化はない。森林面積は減少しているものの、蓄積はまだ成長期にある林分も多いため、この 5 年間で 4,297  $m^3$  (21.9%) 増加している。

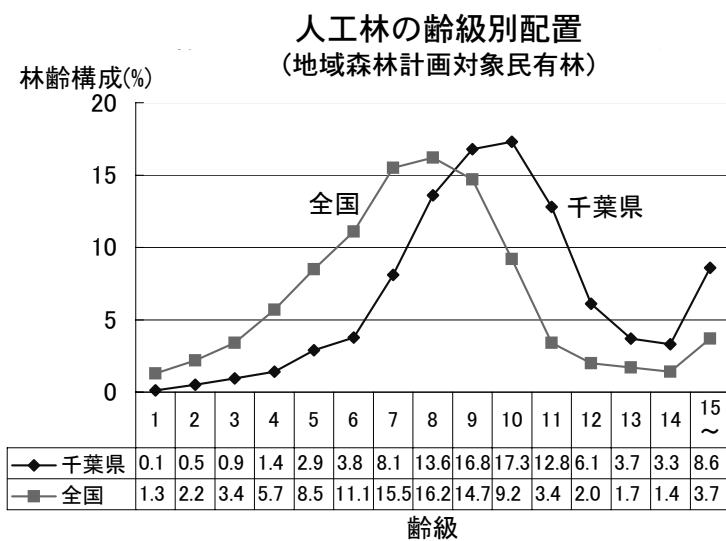
林野率は、31.5% で、全国平均の半分以下で第 45 位 (2000 年世界農林業センサス) である。地区別の林野率は、北総地区が低く、特に人口が集中している東葛飾地区は 6.5% と極端に低い。一方、夷隅、安房、君津地区は県平均を大きく上回り、いずれも 50% を超えている (図表 3)。人口 (平成 17 年 7 月 1 日調査) 1 人当たりの森林面積は 268  $m^2$  で、地区別には、夷隅地区が最も多く、2,721  $m^2$ 、次いで安房地区の 2,241  $m^2$  となっており、最も少ないのは東葛飾地区の 14  $m^2$  である (図表 4)。

### 地区別の森林面積状況

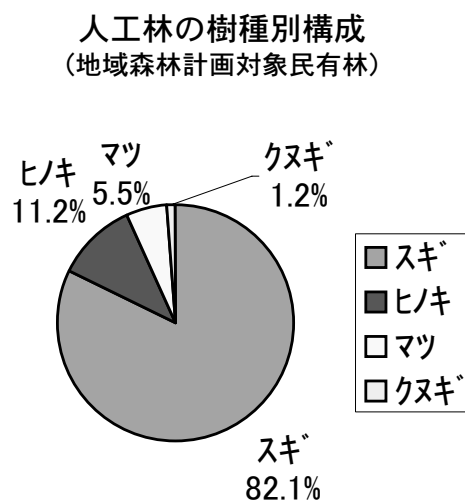


図表 3

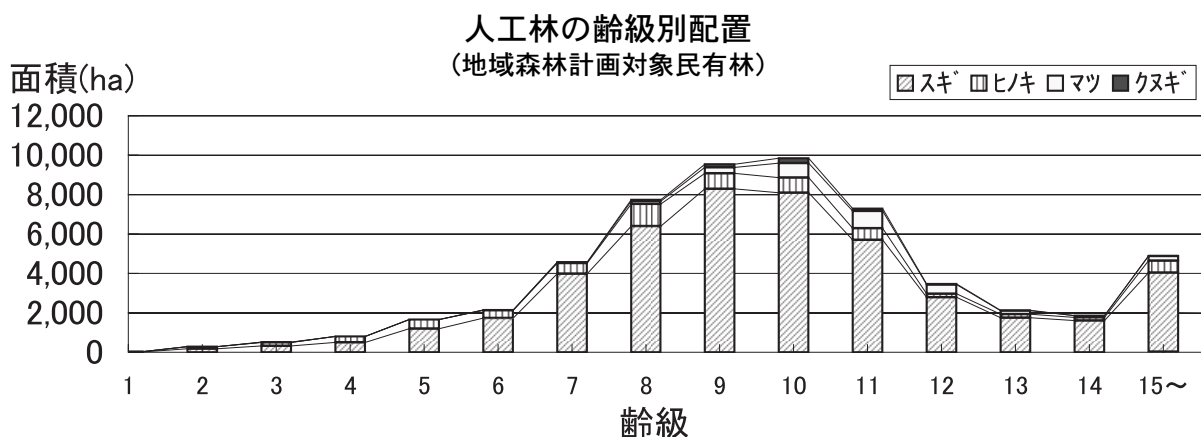
図表 4



図表 5



図表 6



図表 7

森林資源を適正に維持・管理することを目的に樹立される地域森林計画の対象となる民有林は、面積 151,619ha、蓄積 22,565 千 $m^3$ で、全森林に占める割合は、面積 93.5%、蓄積 94.3%である。林種別面積の内訳は、人工林 56,772ha、天然林 73,331ha、竹林・その他 21,516ha で、人工林率は全国平均をやや上回る 37.4%である。

人工林の林齢構成をみると、20 年生以下が 2.9%、21 ～ 40 年生が 28.4%、41 年生以上が 68.7%で、20 年生以下は、全国平均 12.6%の 3 割以下であり、かなり成熟した森林であるといえる (図表 5)。

人工林のうち保育・間伐を必要とする 35 年生以下のものは 17.7%を占めるが、全国平均と比べると 6 割程度低い。樹種の構成は、スギの占める割合が最も高く 82.1%で、以下ヒノキ、マツ、クヌギの順である (図表 6)。森林の単位面積当たりの平均蓄積は 149  $m^3/ha$  で、全国平均 171  $m^3/ha$  (2000 年世界農林業センサス) の 87%である。

森林の有する木材生産等の経済的機能の発揮はもとより、水源かん養、山地災害の防止、自然環境の保全形成等公益的機能への県民の期待はますます高まっており、この要請に応えるため、森林の保全と適正な管理が必要である。